

## 第2回城端線・氷見線再構築検討会の開催結果

1. 日時 令和5年9月6日（水）16時00分から16時50分まで
2. 場所 県庁4階大会議室
3. 出席委員  
新田知事、角田市長、林市長、夏野市長、田中市長  
JR西日本金沢支社漆原支社長、あいの風とやま鉄道日吉社長、  
北陸信越運輸局笠原鉄道部長（オブザーバー）
4. 概要
  - (1) 地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針について説明
  - (2) あいの風とやま鉄道から、別紙資料（当社が将来、城端線・氷見線の経営を引き継ぐ場合の条件）を配布・説明
  - (3) 事業主体を中心に意見交換。次回検討会で議論を詰めることを了承
  - (4) 意見交換（主なもの）
    - ・ JR西日本には、当分の間、安全な運行を継続し、安全対策も実施していただきたいが、あいの風とやま鉄道は、開業以来、地元のニーズを踏まえ、増便、駅の新設・改修に取り組みされており、より地域に密着して持続可能な運営ができると考える。
    - ・ 直通化は効果が期待できる。直通運行するには、事業主体が一つになった方が良いと思うので、その点からもあいの風に運営してもらいたい。
    - ・ 交通政策を一体として考えた時に、コンパクトな県で、かつ元々同じJRが運行していた路線で親和性もあり、JRから経営を引き継いだ経験のある、あいの風にお願いするのが自然。
    - ・ 民間企業であるJRには、様々なステークホルダーがおり、経営の合理性や採算性の確保、西日本エリア全体での整合性なども重視しなければいけない。
    - ・ あいの風としては、①城端・富山直通便が運行されていること、②経営主体が違くと初乗り運賃が併算され、利用者にとって不都合な面があること、③合理的なダイヤを組めること、などを踏まえると、将来的に当社が城端線・氷見線の経営を引き継ぎ、現在の路線とともに一体的に運営することになれば、県西部における交通ネットワークが強化され、鉄道運営の面でも効率化を図ることができる。新しい三セクを作るよりも合理的。
    - ・ あいの風の既存の路線と城端線・氷見線を区分経理することは大事なことであり、あいの風から示された条件は真っ当なこと。
    - ・ 県西部では、沿線市以外の市においても、城端線・氷見線の利便性の向上が期待されている。
    - ・ あいの風から示された条件について、JRとしても社員の出向や技術的な支援、譲渡前の支援など、どのように汗をかいていけるか検討したい。